

四万十の紹介

四万十川は四万十エリアの活力源であり、こののどかな田舎に住む人たちの生活に不可欠な存在です。四万十川の非常に澄んだ水は周辺の農地を潤しており、この川は野生生物にとって理想的な環境です。

四万十は、日本最後の清流として知られています。開発の手が比較的まわっておらず、長い区間にわたって堤防や建造物はありません。小さな各集落は、毎年の洪水に耐えられるよう設計された沈下橋でつながっています。この素朴な橋が、自然の景色にのどかな魅力を加えています。1 平方キロメートルあたりの平均人口がわずか 45 人という四万十エリアは、数百年前のような景観が楽しめるという貴重な機会を与えてくれます。

四万十川では、カヌーやサップ (SUP、スタンドアップパドルボード) から釣りや川辺のキャンプまで、多くのアクティビティを楽しめます。伝統的な屋形船に乗って、ゆったりと景色を楽しむこともできます。背が低い屋形船では、沈下橋の下をくぐることができます。船に乗るほとんどのツアーには、ウナギやテナガエビなど、地元でとれた川のご馳走が付いています。

中村は、四万十エリアで最も大きな町で、河口付近に位置しており、この辺りを探索するにはちょうど良い拠点です。中村は、2 世紀近くにわたる社会の大混乱をもたらした内乱である応仁の乱 (1467-1477 年) の際に一家で京都を去った公卿・一条教房 (いちじょうのりふさ) (1423-1480 年) のもとで繁栄しました。この辺りの地形は京都に似ており、現在でも多くの通りや名所が京都にあるものと同じ名前を持っています。中村城は、町の上の丘に建っており、そこから四万十川を見渡すことができます。